

英語を楽しく

☆ アメリカのほんの一部を紹介 (1)

① アメリカでは、「癌」になっても、病院に行くのは禁止!

アメリカの大手保険会社の癌保険に入っている A さん。ある病院で健康診断を受けたところ、癌の疑いがあった。そこで本格的に調べ手術してもらおうと大きな病院へ行こうとした。ところが保険会社が、「待った。」をかけたのである。アメリカでは保険会社の許可なしには、癌のための手術ができないのです。A さんは半年後、手術ができたわけですが、「間違いなく癌であること」がはっきりしないと手術ができないのですね。

ああ日本に生まれてよかった



② 蒙古班は幼児虐待の痕

アメリカでは赤ちゃんは生まれた直後から小児科医がみます。よく話題になるのはモンゴル系の新生児のお尻にある青いあざです。欧米系の新生児にはないので、それを知らない人から見ると幼児虐待の後と勘違いされて訴えられた人もいます。

Insurance Company

③ 子供に留守番をさせると罪に問われる

アメリカでは州によって多少の違いがありますが、法律で11歳までの子供を大人の監視なしに家に置いておくことは禁止されています。もし、大人が外出する場合は必ず、ベビーシッターに来てもらうか、その家まで連れて行くか、または(大人の)知り合いに頼まなければなりません。

よくテレビでアメリカの家庭風景のある番組がありますが、親が、ベビーシッターに子供を任せているシーンを見られたことはありませんか。



④ 高校生であって大学生

新学期は9月から1クラス30人前後、「飛び級」があり、成績優秀な生徒には学年を飛ばして進級を認める制度があります。このため高校在学中でも大学の単位を取ることができ10代でも大学を卒業することが可能です。